

平成 30 年度 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地
第 1 回 地域連絡会議 議事概要

< 日 時 > 平成 30 年 6 月 27 日 (水) 10:30 ~ 12:30

< 場 所 > 奄美市 AiAi ひろば 2 階会議室

< 出席者 > 奄美市 市長、大和村 村長、宇検村 副村長、瀬戸内町 町長、龍郷町 町長、
徳之島町 町長、天城町企画課長、伊仙町 町長、国頭村 村長、大宜味村 村
長、東村 村長、竹富町 町長
(随行者、事務局関係者は省略)

< 講 演 > 講演者：土屋誠 科学委員会委員長
演 題：世界自然遺産と琉球列島の自然

< 議 事 > 1 . IUCN 評価結果及び課題への対応方針について
2 . 今後のスケジュールについて
3 . その他

< 概 要 >

議事 1 . IUCN 評価結果及び課題への対応方針について

- 資料 1 - 1 「IUCN 評価結果及び課題への対応方針について(素案)」及び資料 1 - 2 「世界自然遺産の管理における自治体の役割(事例紹介) ~主に住民参加、普及啓発の観点から~」について、事務局より説明を行った。

議事 2 . 今後のスケジュールについて

- 最短で推薦書を最提出する場合のスケジュール(資料 2)について、事務局より説明を行った。

質疑・意見の内容

- 推薦書の再提出を来年の 2 月に行うという説明だったが、あまりに拙速すぎないかと不安を感じる。対応すべき課題が多く、地元市町村に期待されている役割も非常に多い。IUCN からの延期勧告によりせっかく時間を与えてもらったのだから、そんなに急がなくても、もっと余裕をもって対応すべきではないか。(竹富町 町長)

それぞれの課題に対しては来年 2 月の再推薦までに全て対応するというのではなく、再推薦はあくまで中間地点である。まずは、どれだけの期間で遺産を目指すのかという目標を定めたいと考えている。2 月までにできることを整理したうえで推薦書に反映するが、2 月までに間に合わなかったものについても、タイムスケジュールを決めて取組を進めていくことになる。(環境省那覇自然環境事務所)

- 推薦区域の分断への対応として推薦区域を広げる場合には地権者への対応も必要となることから、早急に具体的な対応方針を示してほしい。ノラネコへの対応に関しては市町村の役割とされているが、生き物と人間との知恵比べのような状況にあり、市町村だけではなかなか成果が出せず解決策が見えないのが現状である。環境省はノネコ対策だけでなく、ノラネコ対策に関しても市町村に対して有効なアドバイスをしてほしい。(大和村 村長)

推薦区域の調整に関しては早急に対応方針を固めてご相談できるようにしたい。仮に2月までに調整がつかなかった箇所があったとしても、世界遺産登録後に区域を追加することもあり得ると認識している。(環境省那覇自然環境事務所)

飼いネコに関してはチップや不妊手術、ノラネコに関してはTNR、ノネコに関しては捕獲等、それぞれの対応を連携・継続して実施していくことが重要であると認識しており、今後も協力して実施していきたい。(環境省那覇自然環境事務所)

- イリオモテヤマネコの交通事故が減らず苦慮している。観光客も増加傾向にあり、入域制限も含めた抜本的な対策を実施しなければ解決できない課題であると認識している。環境省には意見を言うだけでなく資金面も含めた支援をお願いしたい。また、西表島には広大な国有林があるが、管理する森林官は2名のみであり、林野庁には管理体制の強化をお願いしたい。(竹富町 町長)

来年2月までに準備できたことは推薦書に記載して提出するが、次の段階として再来年の2月までの期間であれば補足や追加資料として提出していくことは可能である。さらに取組については登録後も継続して検討・実施していくことになる。

また、登録によって地域の保全意識が高まるということもある。準備が整わなければ推薦をさらに延期するというのも一案ではあるが、登録を契機として課題への取組を加速させるという考え方もある。IUCNの延期勧告を受けて関係市町村と個別に調整してきた中では、多くの市町村から来年2月の再推薦を求められた経緯もある。あくまで地域の合意が前提ではあるが、最速のスケジュールとして来年2月の再推薦を目指していきたい。(環境省自然環境計画課)

- 平成15年に知床、小笠原とともに世界自然遺産の候補地となったが、2県にまたがる地域であることや様々な課題への対応が求められたことなどから、世界遺産への推薦までに随分時間がかかった。今回、登録延期の理由となった課題には適切に取り組む必要がある。例えばノネコ問題などは地域住民が協力して取り組まなければならない課題であり、地域の盛り上がりが必要である。徳之島では虹の会という民間の団体が保全活動に積極的に取り組んでいる。この世界遺産は人の暮らし・文化と密接に関わってきた自然が対象である点が特徴的であり、文化の力が自然を守ることもつながっていると認識している。すべての準備が整うのを待つのではなく、来年2月の再推薦を目指して、各島で民間の活動も含めて皆が協力していくことが重要ではないか。(伊仙町 町長)

地域の人たちに遺産の価値を伝えていくことが重要であると認識している。体制面

を強化するためには世界遺産登録が効果的であると考えており、遺産登録の狙いでもある。そのためにも来年2月の再推薦が最も望ましいと考えている。(環境省那覇自然環境事務所)

- 早い段階で再推薦してほしいと意見を出していた。やらなければいけないことがあるのは確かだが、あまり時期が伸びると諦めムードが生じる恐れがあり、熱いうちに対応を進めたい。外来種対策には予算も必要であり、指導もお願いしたい。知床財団の事例紹介があったが、国や市町村も財団の運営費用を出しているのか教えてほしい。(徳之島町 町長)

基本財源は地元の町であるが、環境省はクマとの軋轢への対策事業等の請負業務を知床財団に発注しており、こうした費用が財団の運営にも少しは役立っている。(環境省自然環境計画課)

- 環境省にはリーダーシップをとっていただき、早い段階で役割分担を示していただければ我々も頑張れる。また、環境省としての予算もしっかり確保して欲しい。(徳之島町 町長)

世界自然遺産を目指すことが予算確保につながるという意義もある。そういった点も重要と認識している。(環境省那覇自然環境事務所)

- 6月議会では6人中4人の議員から遺産に関する質問が出され、地域の関心も高まっている。最速のスケジュールでも登録は2年後になってしまう。地元市町村、環境省、林野庁、県が協力して最速のスケジュールで進めてほしい。米軍の返還跡地は今年の7月には国立公園に指定されるが、推薦地にも入れていただくよう強く要望する。未返還地がネックになっているという意見もあるが、生物多様性が守られているという見方もある。2017年に米国との協定が結ばれていたことに関しては、もっと広く県民にも知らせてほしい。今後は情報共有をもっと強化すべき。北部訓練場への対応に関しては日本政府として強力に進めてほしい。また、林野庁には返還跡地の国有林の管理強化を、環境省にはウフギー自然館の強化を、沖縄県には環境関係センターの整備をお願いしたい。国頭村は今年度から世界遺産推進室への名称変更に合わせて、環境省及び民間からの人材派遣により体制強化を図った。林野庁、環境省、沖縄県のそれぞれにおいて管理体制の強化を強く希望する。(国頭村 村長)

- 遺産の価値が一定の評価を得たこと、地域の理解を得たうえで一旦推薦を取り下げ、来年2月の再推薦に向けてタイトなスケジュールではあるが、国、県とも役割分担しながら課題を短期、中長期に分けて進めていくことについては理解した。しかし、タイトなスケジュールの中での、地域への周知徹底は地元自治体だけでは対応できないので、国、県の協力を得たい。また、地元自治体の責任は大変大きいですが、相互に協力できる体制を作り中長期的に課題に取り組んでいかなければならない。その点においても本日の地域連絡会議は有意義であり、このような会議の機会をもっと増やすべきである。奄美大島では世界自然遺産推進協議会を5市町村でつくって普及啓発等に努めているが十分

とは言い難い状況である。我々市町村も頑張るがタイトなスケジュールで対応していくには、環境省、林野庁、県に指導、助言、協力をお願いしたい。(奄美市 市長)

- 地域への普及啓発を市町村も含めてしっかりと実施しながら、来年2月の再推薦を目指して取り組んでいくということで、地域連絡会議の合意が得られたと理解して良いか？(環境省那覇自然環境事務所)
一同了解。

議事3. その他

- 市町村の出席者から、再推薦に向けての意気込みや追加意見を求めた。

質疑・意見の内容

- 推薦延期は残念だが、勧告に対して関係機関が連携して取り組んでいくことの重要性については理解した。区域変更に関しては土地所有者との調整・対応を十分行う必要がある。スケジュールに関しては、長い期間をあけると熱がさめることもあり、気運が高まっているうちに対応すべきである。(宇検村 副村長)
- 行政機関だけでなく住民への情報提供が重要である。市町村、県、国がメディアの協力も得て住民に伝えていく努力をしなければならない。(瀬戸内町 町長)
- 龍郷町には推薦地、緩衝地帯はないが、住民は推薦延期に関して落胆している。来年2月の推薦書の再提出に向けて努力していきたい。(龍郷町 町長)
- 早期の再推薦に関しては、再度お願いしたい。環境省の負担は大きいと思うが、地元自治体も役割分担をして、観光や外来種対策にしっかり対応していきたい。(徳之島町 町長)
- 推薦取り下げは残念であるが、遺産価値は評価されているので、関係機関との協力のもとさらに価値を高める取組を進め登録を目指していきたい。(天城町企画課長)
- 環境省だけでなく、鹿児島県や沖縄県などの関係機関との話し合いの場を数多く設けて、情報共有を十分に図っていくようにしていただきたい。現状では他地域がどんな取組を行っているのかが共有されていない。(伊仙町 町長)
- 遺産登録に向けて地域内で協力体制ができてきたことは良い変化である。企業(JAL)と県、村、地域が協力してツルヒヨドリという外来植物の除去作業をボランティア活動として実施した。大宜味村では子どもたちの自然環境への関心も高く、野鳥やチョウの研究活動も盛んであり、世界自然遺産登録への期待は大きい。できるだけ早い推薦・登録を目指してほしいが、予算負担の面には懸念もある。その点は国、県に協力をお願いしたい。(大宜味村 村長)
- 本会議に参加してとても有意義であった。東村では北部訓練場が約4,000haが返還されたが、IUCNからの指摘もあり7月には国立公園に編入されることになった。また、来年2月には再推薦することのだが、住民も期待しているのでスケジュールは早期

に進めてほしい。時間が経つと熱がさめてしまう。(東村 村長)

- 私一人が早期推薦に反対しているように思われるかもしれないが、反対しているわけではない。課題が多すぎることで、特に観光客やレンタカー業者、船会社との連携、協力は難しい問題であり対応に時間がかかる。皆さんと一緒に頑張って行くので、体制強化に協力をお願いしたい。(竹富町 町長)

以上